

那須岳の火山活動解説資料（令和4年12月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図1、図2、図3-1①②、図3-2、図4-①）
湯本ツムジケ平監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南東約5km）及び日の出平北監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南西約0.8km）による観測では、茶臼岳の噴気は100m以下で推移しました。
- ・地震や微動の発生状況（図3-1③、図4-②、図5）
那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しました。震源は、主に茶臼岳付近の浅いところから深さ1km付近に分布しました。
火山性微動は観測されていません。
- ・地殻変動の状況（図4-③~⑦、図6）
GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。



図1 那須岳 茶臼岳の状況（12月23日、湯本ツムジケ平監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

(https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

次回の火山活動解説資料（令和5年1月分）は令和5年2月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

(<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>)

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』『数値地図 25000(行政界・海岸線)』『電子地形図(タイル)』を使用しています。

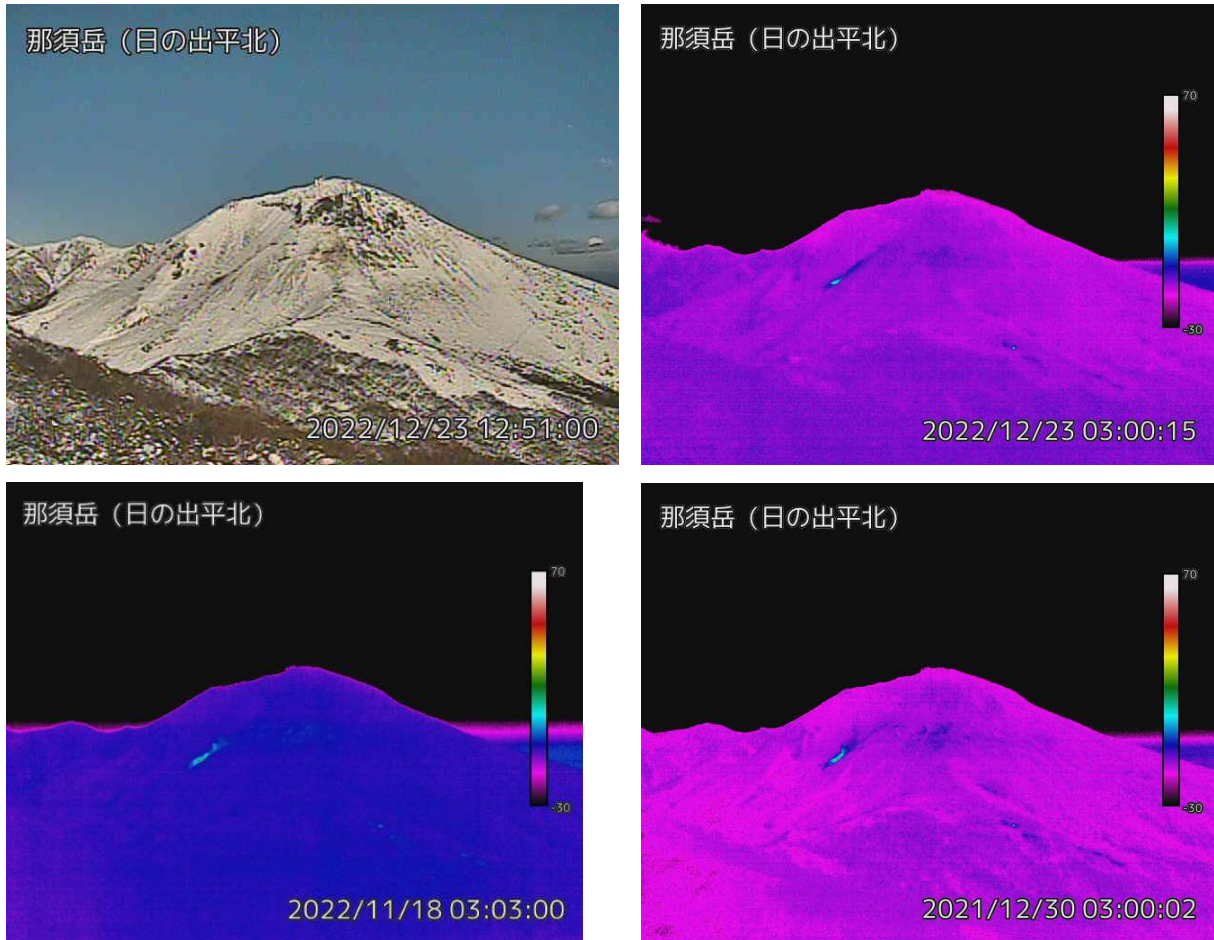


図2 那須岳 茶臼岳の西側斜面の可視画像と地表面温度分布（日の出平北監視カメラによる）

- ・噴気地帯に対応している場所で引き続き高温部分が認められます。
- ・前月（左下図）及び前年（右下図）と比較して、地表面温度分布に特段の変化は認められません。

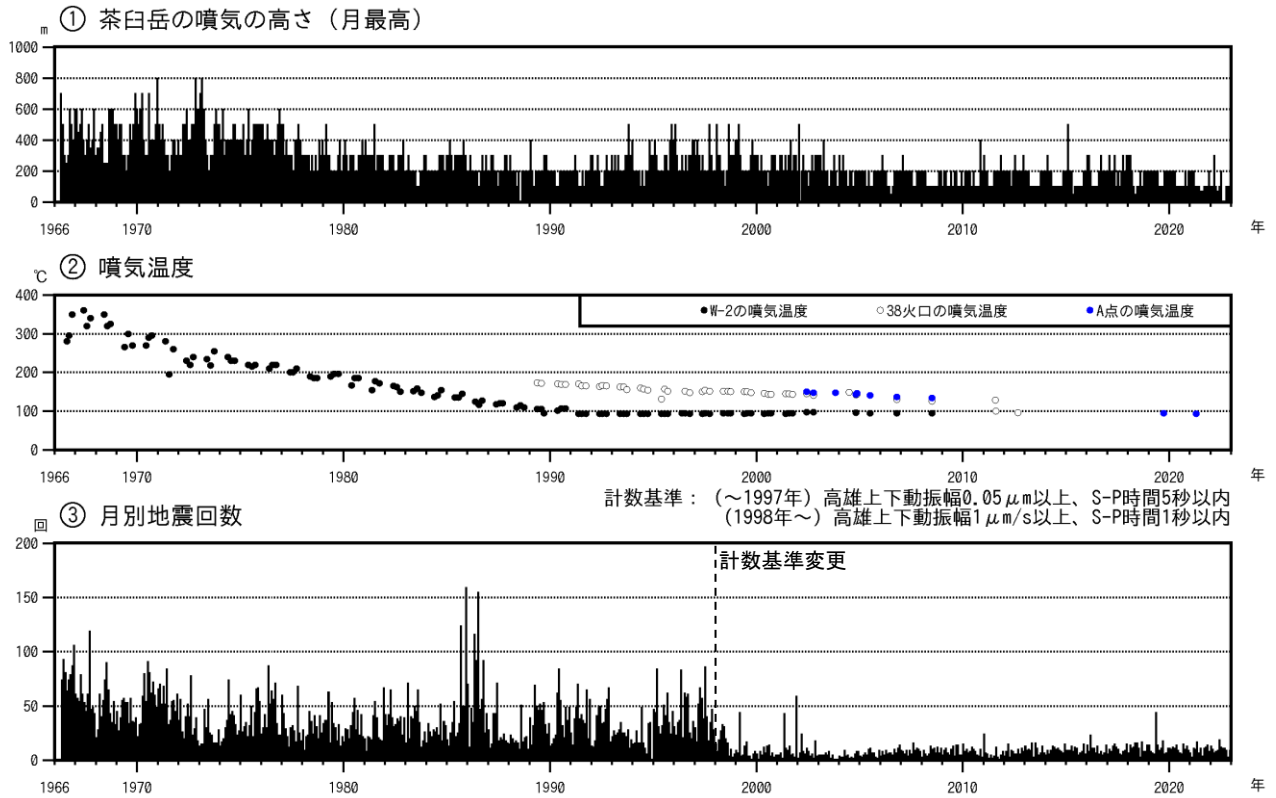


図3-1 那須岳 火山活動経過図（1966年5月～2022年12月）

- ① 2002年2月以前は、定時観測（09時・15時）による月最大値
- ② 噴気温度のW-2、38火口及びA点はいずれも茶臼岳西側斜面の温度観測定点（図4-2）
- ③ 月別地震回数（～1997年：那須岳周辺の地震を含む、1998年～：那須岳山体付近の地震のみ計数）

・噴気活動、地震活動は低調に経過しました。

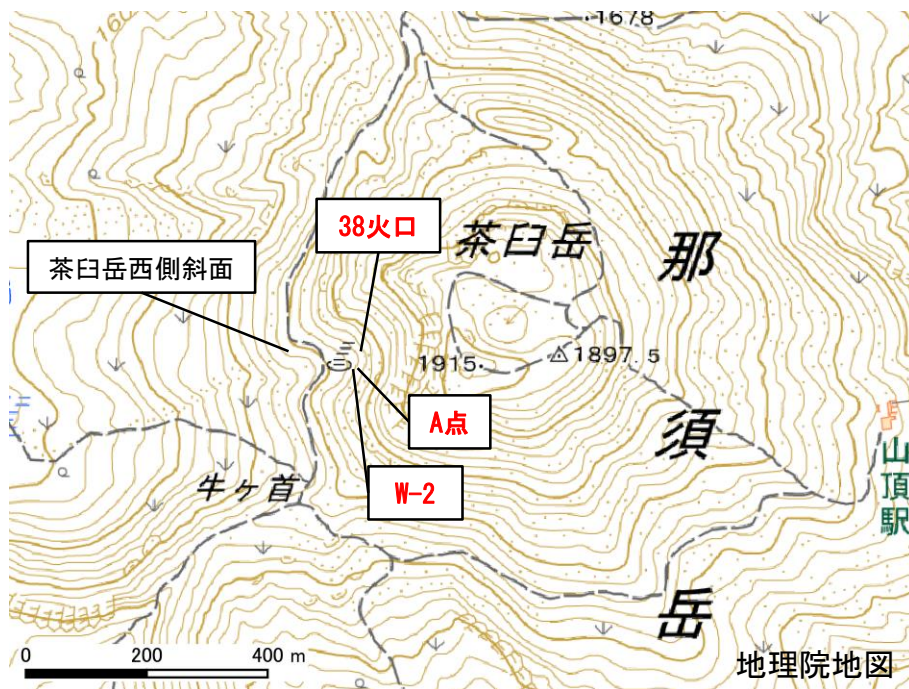


図3-2 那須岳 火口周辺図

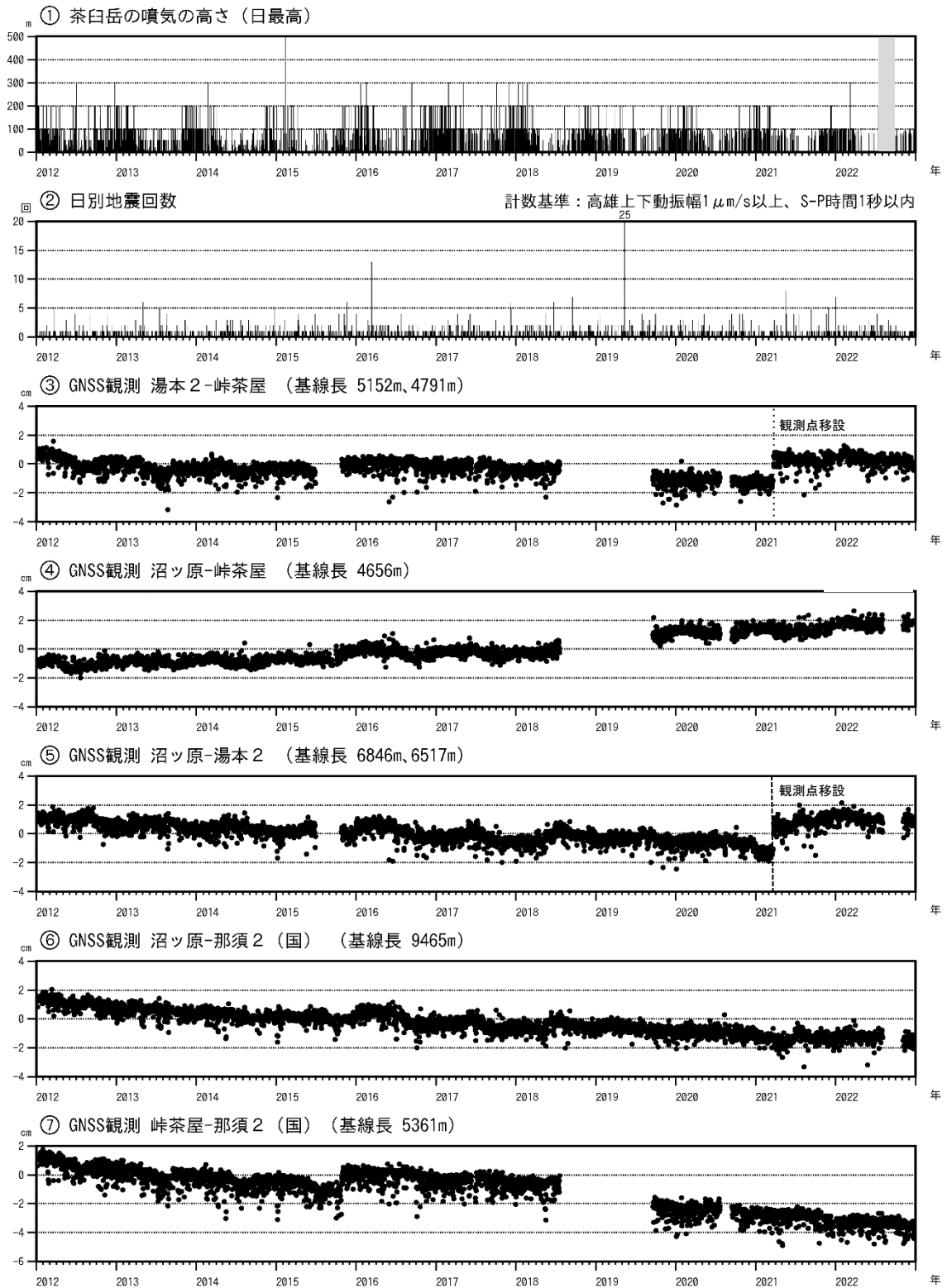


図4 那須岳 火山活動経過図（2012年1月1日～2022年12月31日）

- ① 湯本ツムジケ平監視カメラによる観測結果を示しています。灰色部分は欠測を示します。
- ③～⑦ GNSS連続観測による基線長変化を示しており、図6のGNSS基線③～⑦に対応しています。
2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。空白部分は欠測を示します。
- ③⑤ 湯本2観測点は、2021年3月23日に観測点移設を行いました。
- ③④⑦ 峠茶屋観測点は、2019年9月9日に機器更新をしています。
- ⑤ 基線長変化にみられる夏季の変化は、気象等の要因と考えられます。

・噴気活動、地震活動は低調で、GNSS連続観測でも火山活動によるとみられる変動は認められません。

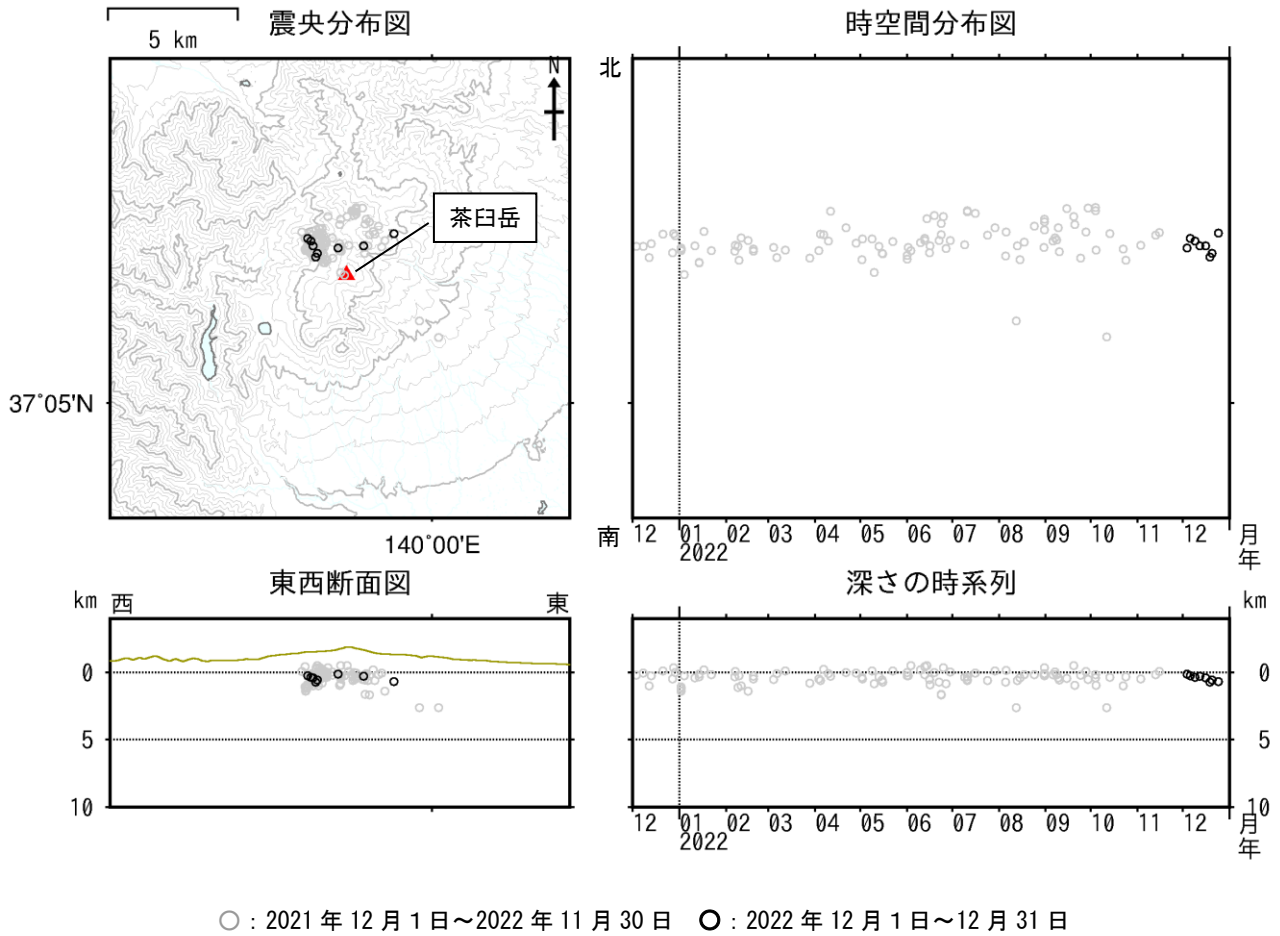
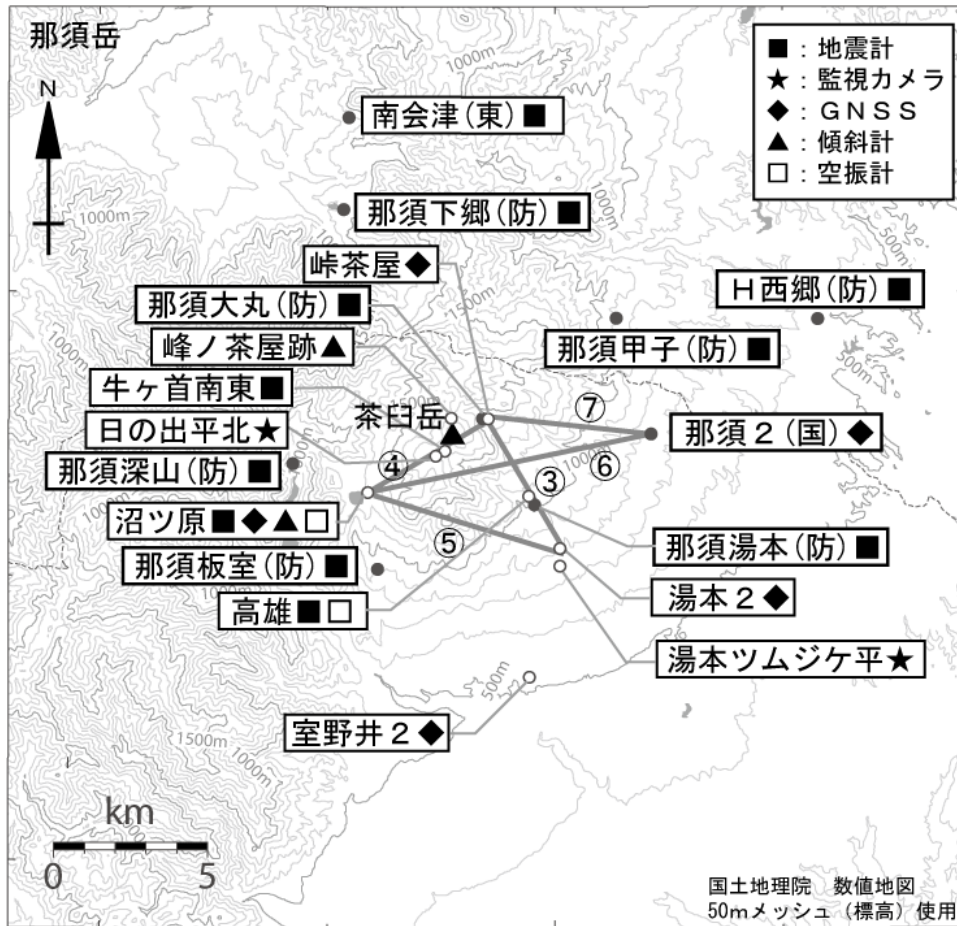


図5 那須岳 震源分布図（2021年12月1日～2022年12月31日）

- ・ 那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しました。
- ・ 震源は、主に茶臼岳付近の浅いところから深さ1 km 付近に分布しました。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(東) : 東北大学

図6 那須岳 観測点配置図

GNSS 基線③~⑦は図4の③~⑦に対応しています。